

7 国際交流

進捗状況報告

本研究科では、2006年度、2007年度 共に9名の海外客員教員を招聘し、国際機関との関係の維持・強化に努めるとともに、積極的に国際交流を推進している（別紙参照：客員教員一覧）。また、国外での研究発表等についても別紙（専任教員海外出張一覧）のとおり活発である。ただし、大学院生レベルでの国際交流については、国外の学会等での研究発表はもちろんのこと、国連セミナーやUNITeS等への積極的な参加をより一層強く働きかける必要がある（資料：国外での教員と学生の共同発表数、国連セミナー、UNITeSへの参加数：年度別）。なお、2009年度には、インドネシア・サチャワチャナ大学からの留学生を迎える予定であり、留学生を通じた国際交流の強化もあわせて図る予定である。

学内第三者評価

総合政策学部と同様、研究科も学内ではもっとも国際交流については実績があるが、それを支えている大学院生レベルでの国内学界はもとより国際学会での報告のための交通費補助など、金銭的助成についても言及されることが望まれる。さらに、これまでの企画に加えて、大学全体をリードするような新しい企画を検討することが期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
国際機関との連携や外国人教員の多さは高く評価できる。関学のモデル的存在として引き続き更なる努力を期待したい。
大学院レベルの留学生数（37人中5人）の増加が将来期待される。